

様式 1 【応募申込書】 第 6 回いい川・いい川づくりワークショップ

活動や事業の名称や応募に当たってのキャッチフレーズ 水と人がつながる山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり	
川や水辺の名称 * ふりがなを忘れずに！	ふりがな やはぎがわ <u>矢作川</u> * 川の場合 (<u>矢作川水系</u>)
所在地	長野・愛知・岐阜県 矢作川流域 8 市 2 町 2 村
川や水辺の状況 ・ 川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・ 住民と川の歴史、関わりなど	・ 矢作川は利水事業により「日本のデンマーク」と呼ばれる西三河地方の農業用水を中心とした水利用を支えてきた。治水対策として矢作ダムを建設し、洪水被害の軽減が図られている。その一方で、全般的には良好な自然環境を有しているものの、これらの施設や砂利採取等による河床低下が回遊性魚類等の移動に影響を及ぼすとともに、河床材料の粗粒化、砂州の固定化、樹林化、河口干潟の減少等が生じている。 ・ 水源林の整備や「矢作川沿岸水質保全対策協議会（矢水協）」による「矢作川方式」と名付けられた水質保全の取組など、住民による環境保全活動の長い歴史があり、「矢作川研究所」や「矢作川「川会議」」による市民や各団体との情報の共有・活動の連携や調査・研究活動が行われている。
活動や事業の内容 ・ 内容 ・ 成果 ・ 課題 など	矢作川流域圏懇談会は、河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは解決できない課題に対して、山から海までの流域圏全体を対象として、個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など 100 名以上のメンバーの連携・協働により、調和のとれた流域圏全体の発展につなげることを目的に様々な取り組みを実施している。 具体的には、市民が中心となり、矢作川現地を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向け、「山村再生担い手づくり（山）」「魚の棲みやすい川づくり（川）」「ごみ・流木調査（海）」など、流域圏一体となった取り組みを行っている。
活動・事業の期間	(活動の場合) 平成 22 年から (事業の場合) 着工 年 ~ 竣工 年
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください	
主に発表したいこと ※一つに○印	① 調査や研究活動 / ② 広報や啓発のための活動等 / ③ 環境学習や体験活動 ④ <u>水辺の計画づくりや整備事業等への参加</u> / ⑤ 環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術等 ⑦ その他 ()
発表者 いずれかに○印	小・中・高校生但し高校生は市民等でも可 / <u>市民</u> (個人、任意団体、NPO 法人等) / <u>行政</u> / 官民共働 / 企業 / その他 ()
アピールポイント ① 活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ ② 地域の歴史や暮らしとの結びつき ③ “いい川”づくりへのプロセス ④工夫した計画手法や技術 ⑤ その他	①～⑤の各項目で特に該当する内容があれば、番号を示して具体的な内容を記入してください。 ①川づくりの源である山、川づくりを写す海を加え、川づくりを流域圏という単位で進め、それぞれの地域で川に係る多くの市民、企業、学識者、行政が連携・協働して河川管理者だけでは解決出来ない多様な課題への取り組みや情報共有・意見交換を山・川・海部会が毎月 1 回以上のペースで進めている。 ④河川工事の実施に際して、魚、鳥などの生物、植物など詳しい市民、専門家などとともに現地調査・意見交換を行いながらより良い川づくりを行った。ごみ・流木調査を行い、これらの流下物の軽減を図るため、関係機関との調整・連携を図った。いい川づくりを進めるため、流域圏として統一性のある森林管理、矢作川の森の恵みが中下流や海まで行き届く取り組みを進めている。
キーワード (3 つ)	①山川海流域一体の川づくり ② 100 超の団体等の参加 ③ 年 40 回に迫る議論
応募者	ふりがな 応募者名 にしはら ひとし 西原 均 発表者想定人数：4 名・発表者以外参加者 名
	連絡先 (公開・ <u>非公開</u>) (自宅・下記所属・その他) 該当する方に○印
	住所：〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 TEL：0532-48-8107 FAX：0532-48-8100
	所属団体 (市民・ <u>行政</u>) 該当する方に○印
これまでの参加	ふりがな やはぎがわりゅういきけんこんだんかい 所属名 (団体・部署名など)：矢作川流域圏懇談会 ホームページ URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaigi/yahagigawa/ryuiki-kondan/ <u>新規</u> / 第 回大会参加 (一次・二次・三次・グランプリ)

水と人がつなぐ山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり



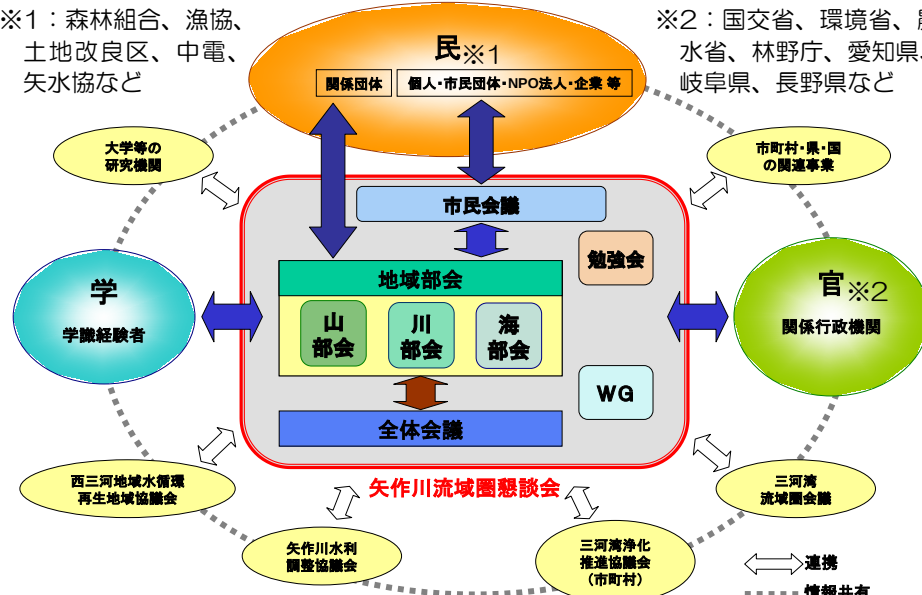
団体名：矢作川流域圏懇談会
発表日：平成 25 年 11 月 2 日

■矢作川流域圏懇談会とは

- ◆目的：河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは“絶対”解決できない課題を解決し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につなげる。
- ◆メンバー：個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など 100 名以上
- ◆活動内容：市民が中心となり、矢作川現地を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向けた、流域圏一体の取り組みを行っている。

※1：森林組合、漁協、土地改良区、中電、矢水協など

※2：国交省、環境省、農水省、林野庁、愛知県、岐阜県、長野県など



■矢作川流域圏懇談会イメージ



■活動範囲

■市民が中心となって、流域圏の課題に取り組み、悩んでいます

- 【全体】
- ＜これまでの主な活動＞
- ・市民企画会議（WG）
 - ・市民会議
 - ・市民提案による勉強会（森の健診、生き物調査、河川事業の勉強など）
 - ・全体会議

各部会での活動の情報交換や流域圏一体に向けた議論、市民提案による勉強会等の活動を行っている。



- 【山部会】
- ＜これまでの主な活動＞
- ・山村再生担い手づくり事例集の作成
 - ・矢作川流域山村ミーティング
 - ・森づくり、木づかいガイドラインの検討

検討テーマである「人と地域の問題」、「森の問題」を解決するため、事例集、ガイドライン作成に向けて活動している。



- 【川部会】
- ＜これまでの主な活動＞
- ・矢作川の瀬・淵調査と保全・創出方法の検討
 - ・家下川（支川）の段差解消・水源確保の検討
 - ・川の活動情報の共有
 - ・河川事業のチェック

「魚の棲みやすい川づくり（上下流問題）」「地先の課題」をテーマに、モデル地区での検討を進めている。



- 【海部会】
- ＜これまでの主な活動＞
- ・ごみ・流木調査
 - ・干潟生き物調査
 - ・三河湾内水質調査
 - ・海へのアクセス調査

「親しみやすい豊かな海」の実現を目標に、ごみ・流木問題、絆再生、干潟・ヨシ原再生をテーマに活動している。



■アピールポイント

＜活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ＞

川づくりの源である山、川づくりを写す海を加え、川づくりを流域圏という単位で進め、それぞれの地域で川に係る多くの市民、企業、学識者、行政が連携・協働して河川管理者だけでは“絶対”解決出来ない多様な課題への取り組みや情報共有・意見交換を山・川・海部会が毎月2回以上のペースで進めている。



＜工夫した計画手法や技術＞

- ・河川工事の実施に際して、魚、鳥などの生物、植物など詳しい市民、専門家などとともに現地調査・意見交換を行いながらより良い川づくりを行った。
- ・ごみ・流木調査や流域圏として統一性のある森林管理、矢作川の森の恵みが中下流や海まで行き届く取り組みを進めている。
- ・2年目から、市民企画会議を新設し、市民主導の運営にシフトした。



川や水辺の名称	やはぎがわ 矢作川（矢作川水系）	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ	水と人がつなぐ山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり
所在地	長野・愛知・岐阜県 矢作川流域8市2町2村	エントリーNo.	402
応募者名	にしはら ひとし 西原 均		
所属団体名	やはぎがわういきけんこんだんかい 矢作川流域圏懇談会		

第6回 いい川・いい川づくりワークショップ

(since 1998, 第16回「川の日」ワークショップ)

“日本のいい川・いい川づくり” 募集!!

7月7日「川の日」の記念行事の一つとして全国の川や水環境に関する市民、行政に呼びかけスタートした「川の日」ワークショップは、第10回記念大会を経て「いい川・いい川づくりワークショップ」として新たに歩み出し、通算16回目の開催となりました。過去15回の大会で応募数は932件となっています。

この大会は、私たちがめざす川や水辺はどんな姿なのか、私たちにとって“いい川・水辺”とはどんなことなのか、自由に柔軟に探っていこうと、各地で活躍する市民・住民・行政に呼びかけ1998年に始まりました。これこそ“いい川”・“いい川づくり”という事例や事業、思いを持ち寄り、その目的、取り組みを発表、議論することにより、少しでも“いい川・いい川づくり”のビジョン、イメージの共有につながれば、やがては日本中に個性豊かな愛着の持てる川や水辺が出現するとの思いからです。

これまで、全国各地域で地域大会が独自に開かれ、お隣の韓国の大会も12回を数え、双方の大会への参加、交流が、市民や学生、子ども達の交流に広がっています。

ワークショップでは、さまざまな水辺とともに、山や里、水路や海、下水道や雨水の分野、水循環、防災、まちづくり、福祉、教育など、領域やテーマを広げつつ、子どもたち、大学生など、世代を越えたさまざまな人たちが一堂に会し、2日間にわたる驚きと感動にあふれた公開選考会と交流が行なわれます。

みなさんの自慢の“いい川・いい川づくり”を持って、ご参加下さい。



- 日時：2013年11月2日（土）13:00～18:30 19:00より交流懇親会
3日（日・文化の日）9:00～15:30 *時間は予定です

- 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（メイン会場）国際交流棟 国際会議室
（東京都渋谷区代々木神園町・新宿駅から小田急線「参宮橋駅」より徒歩5分）

主 催：いい川・いい川づくり実行委員会

実行委員長 宮口 侗 他約100名

後 援：国土交通省（予定）

いい川・いい川づくりワークショップとは？

- 全体会場での全応募者一斉発表に始まり、テーマ別のテーブル選考、復活選考、会場からの意見も交えて行なわれる全体選考会のプログラムで、全てオープンに行われます。
- 各選考は実行委員会からそれぞれ選出された選考員（市民、行政、学識者など）が行います。選考の視点、評価のポイントは次のように考えています。
 - ◆ 川の「タカラモノ」に光を当て、「いい川」「いい川づくり」とは何かを探ります。
 - ◆ 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
 - ◆ 公開選考会は、おおよそ以下の4つのカテゴリーにおいて総合評価します。
 - 発想・着眼評価：「いい川」をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 - 関わり評価：地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価
 - プロセス評価：「いい川」を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
 - 計画・技術評価：川らしさの保全や「いい川」回復のために工夫された計画手法や施工技術等についての評価や「いい川」を実現した技術に対し選考を行います。
- 応募者は、規定のプレゼンテーション用パネルを用意し、自由な表現方法で発表、アピールします。1件3分という限られた時間の中で、工夫を凝らし熱のこもった発表が毎回繰り広げられています。日頃の取り組みを発表すること、そして意見交換、参加者との交流を通じて、新たな発見、取り組みのエネルギーをつかみます。
- 選考は優劣を決めるものではありません。2日間を通じた合意の深まり、学びあいの成果として、グランプリや入賞を選びます。入賞者には、実行委員会よりオリジナルの表彰状や副賞を贈呈し、成果を讃えます。

第6回 いい川・いい川づくりワークショップ 大会概要

※プログラムの詳細、時間等は多少変更する場合があります。

11月2日(土) 13:15 開会～18:30 ※会場受付 12:30～

・会場:国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室 ほか

・実行委員会(11:00～11:50) センター棟3F 304(80人室) ※実行委員のみ

全体集会

- ・13:15 開会・国際交流棟 国際会議室(全体会場)
- ・開会式／ワークショップの考え方や進め方等を共有します。

全体発表会
(全応募団体の発表)

- ・全体会場での全応募団体の発表会
- ・あらかじめ分けられたグループごとの順に従い、1件につき3分間で続けて発表のみを行います。グルーピングと順番は、当日の選考資料参照。

テーマ別
テーブル選考

- ・全体発表会での発表を受けて、大まかなテーマ別のグループに分かれ、それぞれの会場(テーブル)で発表者、一般参加者を交えて議論します。
- ・同じテーマのエントリーが多数の場合、テーブルは複数となります。全体選考に各テーブルから2件程度を推薦します。

全体集会

- ・テーブル選考の結果報告
- ・韓国からの参加者による発表
- ・1日目終了

交流懇親会

- (19:00～ ・会場:オリンピックセンター施設内を予定)
- ・交流懇談会と2日目の復活選考等に向けたアピール ※事前申込み・会費制
- ・川の恵み交流会

11月3日(日・文化の日) 9:00～15:30 閉会

・会場:国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室

復活選考

- ・テーブル選考の選外から全体選考へ、ポスターセッション形式による追加推薦を選考員による投票で行ないます。

入選者発表会

- ・テーブル選考と復活選考で推薦された団体による発表会です。
- ・3分/件、発表のみ

公開討論による
全体選考

- ・二部構成の選考と討論のなかから、グランプリほか各賞の絞込みの議論を通じて、新たな“いい川”“いい川づくり”を発見し評価していきます。

講評・表彰

- ・グランプリ、準グランプリなどの表彰
- ・特別賞(広松伝賞、森清和賞、“いい川”技術賞)の表彰と講評

◇ 発表の方法 ※別項「応募の方法」もあわせてよくご確認ください！

- ・ 選考の各過程を想定してご準備ください。配布資料等を当日持ってくることもできます。

選考会 1 日目（11/2：全体発表会及びテーマ別テーブル選考（一次選考））

- ・ 応募申込書(様式 1)の「主に発表したいこと」等の内容を参考に、事前に事務局によりグルーピングします。
- ・ テーブル選考に先立ち、全体会場で、全応募者の一斉発表会を行ないます。発表時間は各3分で、続けて発表のみを行います。発表者は複数名でもかまいません。質疑等は、全体発表会の後に行うテーブル選考で行います。
- ・ 発表用パネル(A1 サイズ、必須)のほか、時間内に音楽や映像等も使用できますが、水辺の状況や活動の様子、技術の内容など全体のイメージやアピールしたいこと伝えるための写真等 3 点まで(パワーポイントならスライド 3 枚、静止画のみ)とします。パソコンを使用する場合は、データを事前にお送りください。
- ・ ただし、パワーポイント等に頼らないユニークな表現やアピールしたい事を効果的に強調する創造的な工夫は、このワークショップでの大きなポイントの一つになります。
- ・ それぞれの川や水辺の全体のイメージを会場全体で共有するため、発表中にその水辺の風景写真を 1 団体につき 1 点映し出す予定です(発表者が使うスクリーンとは別のザブスクリーンを設置予定)。川や水辺の全体の様子が分かるような風景写真を事前に送ってください(前項「応募の方法」参照)。
- ・ 発表パネルは全て各会場に展示し、発表、選考、投票等で使用します。

選考会 2 日目（11/3）：復活選考および入選者発表会

- ・ 2 日目スタートと同時に、前日のテーブル選考で選外となった発表から全体選考に追加推薦する目的で、パネルの一斉展示によるポスターセッション形式の復活選考を行ないます。
- ・ テーブル選考及び復活選考からの推薦団体を入選団体とし、全体会場(国際会議室)のステージで発表します。ここでも 3 分間の発表時間(発表のみ)が与えられます。前日の発表の手ごたえや、議論の結果等を受けて発表をアレンジするなど工夫してください。
- ・ パワーポイント等は使用できますが、前日と同様、静止画で 3 点(枚)までとします。
- ・ 全体選考は、コーディネーターによる進行のもと、選考員や会場とのやりとりによりグランプリ等の絞込みを行ないます。選考終了後、表彰式を行い、閉会となります。

◇ その他

- ・ このワークショップの目的は、“いい川”のイメージをお互い共有することにあります。交流会は自由参加ですが、開会から閉会までの2日間のフル参加を原則とします。
- ・ 応募申込書(様式 1)とパネルの縮小版(様式 2)は、当日の選考用手元資料として冊子(A4 サイズ、モノクロ)にします。応募申込書に記入された個人情報については、主催者側で厳重に管理し、本大会に関わること以外の目的では使用いたしません。
- ・ 2 日(土)夜は、交流懇親会を行います。二日目の復活選考会などの重要なアピールの場ともなりますので、ぜひご参加下さい(参加費:飲み物代込みで大人 3,500 円、中・高校生 2,000 円、小学生 1,500 円程度を予定)。
- ・ 市民の応募者で遠方の方には、旅費の一部補助を予定しています。詳しくは事務局までお問い合わせください。行政、企業の方は自己負担にてお願いします。遠方の方はチケット等の早めのご予約をおすすめします。
- ・ 会場のオリンピックセンターでの宿泊も可能です(1泊朝食付きで 3,450 円)。遠方、早めにお申込みの方を優先しますが、数に限りがありますので、ご協力をお願いいたします。

☆初めての応募、行政や企業などの事業、取組みの応募、参加も歓迎しています！

※ 詳細やご不明な点などは、下記事務局までお気軽にお問い合わせください！

●応募・問い合わせ先：いい川・いい川づくり実行委員会事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-20-14-301 NPO 全国水環境交流会

TEL:03-3408-2466 FAX:03-5772-1608 E-mail:kawanohi-2006@mizukan.or.jp

URL:<http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/kawanohi.htm> ※過去の大会や関連する大会、エントリー団体も逐次紹介しています

この「第6回いい川・いい川づくりワークショップ」は、公益財団法人 河川財団の河川整備基金の助成を受けています。

◇ 応募の方法

※プログラム等の都合上、今回は 30 件を目安に募集します。8/27 以前でも定数に達した時点で締め切る場合もありますので、お早めにお申込み下さい。下記 1. 2. 4. は、メールでの送付を歓迎します。

1. 応募申込書（様式 1） ※別紙、ホームページからも Word 文書をダウンロードできます

⇒ 10月7日まで（メールによる送付歓迎）

：選考用の手元資料原稿として使用します。内容については分かる範囲で記入してください。応募者欄は、発表予定者（連絡責任者）、複数の場合は代表者名を記入してください。

2. パネルの縮小版（様式 2） ※下記参照 ⇒ 10月15日まで（必着）

：応募申込書とともに選考用の手元資料の原稿として印刷（A4 サイズ・モノ加）、配布します。実際のパネルとの多少の変更は構いません。

3. 発表用パネル（様式 2） ※下記参照 ⇒ 当日持参、または事前送付。

：下記参照、事前に送付される場合は、必ず事務局までご連絡ください。※会場には直接送れません

4. 水辺の風景や状況、活動の様子などの写真（1 点か 2 点） ⇒ 応募申込書か縮小版とともに送付

：事前にエントリー団体の概要とともにホームページで紹介します。また、当日発表時に会場全体でその川のイメージを共有するための写真をスクリーンに表示します。ホームページ用は活動等の様子が分かる写真でも構いませんが、スクリーン表示用の写真は、水辺全体の雰囲気分かるような写真（文字なし）を送ってください。※デジタル、プリントどちらも可。返却が必要な場合は予めお知らせください。

※別項「発表の方法」もあわせてよくご確認ください！

様式 2 【発表用パネル・パネル縮小版】について

・パネル実物は A 1（59×84cm）サイズ、パネル縮小版は A4 サイズ、（タテ・ヨコ使いとも可）

発表用パネル（A1 サイズ）

- ・所定の記入欄以外は、写真や図表、イラストのほか、さまざまな材料を用いた立体的なものも可能です。こだわらず自由に表現してください。
- ・発表では複数のパネルを使用できますが、展示・投票用としてメインのパネル 1 点を決めておいてください。
- ・会期中、パネルは各会場に立てかけて展示します。フレーム、発砲スチロール、厚紙等、形状は自由ですが、まっすぐ立てかけられる強度になるよう工夫して下さい。持ち運びやすいよう二つ折りなども可（設置するためのスタンド等はこちらで用意します）。

パネルの縮小版（A4 サイズ）

- ・モノクロ可、手元資料の印刷原稿として使用します。実際のパネルとの多少の変更可。

共通事項

- ・余白は、上下・左右とも各 1.5 cm 位
- ・「記入欄」をつけてください。

記入欄：拡大図（縮小版では原寸）
* 拡大コピーして使用可

ふりがな 川や水辺の名称	(水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ
所在地	県 市町村	
応募者名(ふりがな) 所属団体名		(記入不要) エントリーNo.